

三条の鍛冶屋と商人

安来から出荷された鉄鋼は、現在の新潟県にある三条市に第二次産業をもたらした。1650 年頃から、三条地方の鍛冶屋は、火災やその他の自然災害の後、家屋や店舗、その他の建物を再建するために大量の釘の需要の高まりに対応した。三条の鍛冶屋はその後、鎌、はさみ、大工道具など他の道具の生産にも進出した。高品質な製品と顧客満足への献身で高い評価を得ている。例えば、現存する注文書には、職人がどのようにそれぞれの鎌のデザインを顧客の特定のニーズに合うように調整したかが記されている。

三条で作られた製品は、江戸(東京)を含む全国で販売された。それが可能になったのは、この町が内陸水路に近く、海運に適していたからである。三条は、信濃川と五十嵐川という2つの大きな水路が交差する場所に位置し、小さな運河が幅広いネットワークでつながっている。このネットワークのおかげで、安来製鉄の製品は遠く離れた地域の消費者にも届くようになったのである。